



市長所信表明 (抜粋)

4月24日、平成24年第1回対馬市議会臨時会にて

自立するふるさとの島「対馬」へ

私は、4年前の市長選挙において掲げた「財政改革」「透明政治」「地域力の醸成」という大きな三つの公約を柱に、4年間市政を一生懸命運営してまいりました。

そして、選挙期間中、「自立」という文言を幾度となく使い、市民の皆様には、今すぐには実現不可能ではあるものの「20～30年後の自立」を目指して、今この時期まさに対馬の土台づくりに力を注がねばならないとも訴えました。自立とは字の如く自らの力で立ち上がる事であり、国も借金に喘いでいる状況において、従来のような「無い物ねだり」ができる時代は終焉を迎えています。ならば私達は自ら「有る物探し」の旅に出

昨年12月定例議会において可決され本年度より施行されました「市民基本条例」の趣旨にのっとり、市民と行政、そして議会とが同一方向で連携し合う協働型の市政へと改革と創造に挑戦し続けます。

そのためにも、私も行政機関が持っている情報だけの一方方向でなく、市民の皆様が持つていらつしやる人的ネットワークからの情報なども素早く相互に流れ込む体制を、今まさに構築しているところです。

◆地域資源循環システム確立による就労の場確保

今、山積する様々な課題の解決のために「海」「森」「国際ビジネス」「地域コミュニティ」「生ゴミ」と掲げた5つの地域資源循環システムを市をあげて積極的に動かしていく所存です。対馬の最大の課題は「就労の場がないこと」であります。しかし、リーマンショック以後の世界経済の停滞に接する時、企業誘致による雇用創出は至難の課題です。そのような状況下だからこ

そ地域資源を活かした起業の掘り起こし雇用を創出する事に一生懸命に取り組んでいきます。

まず、第一に対馬の底力を発現するために「環境王国」対馬」を最前面に押し出した地域資源循環システムを動かすことに腐心していきたいと考えています。

「海」の循環には「森づくり」は欠かせません。「海洋保護区設定」と「資源回復」は表裏一体のものです。海洋保護区については、有識者からなる「科学委員会」をまもなく立ち上げ、科学的な根拠をもとに設定に向けてギアチェンジして取り組めます。加えて、「加工産業の育成」には「市場」が島内に必要です。良質な塩を求める海外市場はすぐそこにあります。「塩づくり」と海洋環境保全は密接に繋がっています。

「森」の循環では、間伐を大幅に促進したいと思えます。間伐の資金は一昨年来より調査を進めていました対馬市の公有林の二酸化炭素吸収量が約1500tは見込

めましたので、この吸収量をカーボンクレジットという証券に換えて市場へ流し、資金調達できる見通しがたちました。さらにカーボンオフセットしている森ということも「売り」に、対馬原木しいたけの対馬産品のブランド化を図り生産者の所得向上を推し進めてまいります。また、4月から施行の「森林づくり条例」に基づき伐採ガイドラインを今年度中に策定する予定ですが、豊富に蓄える森林資源の有効な高度利用を図りつつ、木材輸出でも林業の復興を図ります。さらに、林業復興と化石エネルギー依存からエネルギー分散化を目指し、太陽光発電やLED照明の導入で島への環境負荷の軽減を図ると共に、バイオマスボイラーのさらなる導入や公共施設へのペレットストーブの新たな導入に向けペレット製造をも念頭に置いた施設等設置へ力を注ぎたいと考えています。森林と関連の深い水資源開発により「水ビジネス」も展望しています。

また、島の資源活用の研究並びに試作品製作に取り組み起業や雇用創出につなげるため、島内外の人たちが気軽に利用できるオープンラボトリー機能や、現在対馬市にて活躍している島おこし協働隊の底力を活かした、イノシシやしかの皮革製品の開発、葉草の商品化を展望した二ユービジネスを展開するため遊休施設の活用を図ります。また、ツシマヤマメコ等の稀少動植物の保護とそれを支える自然共生型・資源循環型の持続可能な集落づくりを、古民家などを活用して推進してまいります。

◆安心・安全な暮らしのために

災害などの緊急時に備えた対策の充実につきましては、イノシシ等の野生獣からの集落防衛対策を最優先に進めてまいります。また、昨年の東北震災を受け、策定期間を2年間延長し見直し作業を進めております。「対馬市地域防災計画」を今年度中に策定し、地域避難場所の再設定や避難時の導線

さらに計画にもとづく訓練などを実施し、市民の皆様が安心して安全を提供していただきたいと考えています。

また、平成26年度当初開設を目的に敵原南部地区へ救急分遣隊を設置し、救急の搬送時間の短縮に努めます。高齢者や子どもを始めとし、自ら車の運転が出来ない方たちの移動を支える地域公共交通の確立のため、地域コミュニティバスなど新たな公共交通導入を目指します。

市民へ安心できる医療体制を提供するため、診療履歴カードの導入を図り、救急搬送時において救急救命士が初期から適切な処置が講じられるような体制を組み立てる予定です。また、市内医療機関の連携を確立し、緊急時などにおいて市内での医療機関でも直ちに診療が行えるシステムの確立を図ります。

また、平成26年度に新たに開院する対馬いづはら病院と中対馬病院との統合病院に島内初の放射線治療等の高度医療体制の確立を図ります。また、統合後の対

馬いづはら病院の施設利用についても、病院規模は縮小するものの市民の皆様が安心して通・入院が可能な施設への転換に向け全精力を傾注して参ります。併せて、介護施設入所希望者の待機状態が慢性化していることの解消に向け、積極的に転換してまいります。

小中学校の適正配置につきましては、対馬の宝である子どもたちにとって「あるべき教育環境」の構築に向けて取り組んでまいります。さらに、子どもたちに文化や芸術・芸能などとふれあう機会を積極的に提供していきたいと考えております。また、この4月に開設された「長崎県立虹の原特別支援学校高等部対馬分教室」に続き、さらには中等部・小等部をも拡充開設できるように、関係機関に対し働きかけてまいります。

◆おもてなしの島へ

また、島まるごとでもなし観光の樹立を図り、「環境王国」ブランドを利用した自然環境メニューで自然

観光立島を目指します。

観光客の満足度を充実させるため、観光物産センターの開設、観光客と市民が交流する道の駅の設置、対馬の歴史文化を満喫できる歴史海道博物館の設置、増え続ける国外旅行者へ対応する比田勝港国際ターミナルの大規模改修なども行ってまいります。

また、昨年からの動きはじめています中国上海市崇明県との友好関係も、今までお付き合いをすすめてきた韓国釜山市影島区同様に大切に育む予定です。申し上げましたように来島客の入込み環境が変わろうとする中、現在でも入り込み客を充足することができず、キャンセル客からの苦情が届いていますので、ホテルなどの客室不足の現状を解消するため積極的に動きだそうと考えています。

◆市役所組織機構の見直し

加えて、行政改革の一環として、職員数の適正化を推進しつつも、申し述べてまいりました政策を確実に実現できるように、市役所の

組織機構をより機動的で迅速かつ柔軟な組織へと抜本的な見直しを行います。まもなく、市民代表、有識者からなる「対馬市組織機構見直し検討委員会」を設置。今年度中に将来を見据えた組織計画を策定し、新たな組織機構の確立を図ります。

1期目の4年間をしっかりと検証し、反省すべきところは素直に反省し、進捗すべきところは積極的に押し進めてまいりたいと考えております。

私たちは、過去に対馬を築いた先人たちに申し開きができるように、そして将来の世代にしっかりと自信を持って引き渡せるように、可能志向で考働し、たゆまず市政の創造と革新に挑戦し続けてまいります。

市民の皆様の深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。